

公開講演会

『翻案』の魔

術師

—アニメーション映画監督・宮崎駿—

講師

米村みゆき

専修大学教授

2023. 6. 30 (金)

14:55~16:25 23201 教室(定員 150 名)

対象: 本学学生・教職員、高大連携協定校、海外協定大学*

*シーナカリンウィロート大学(タイ)、上海外国語大学(中国)、輔仁大学(台湾)

*協定校・協定大学からの参加はZoomとなりますので、QRコードまたは

以下のURLの申込フォームよりお申し込みください。(6/29(金)15:00 締切)

©03-5382-6749 ©<https://forms.gle/yHdbMPfTwrnvj4756>



 東京女子大学比較文化研究所

〈翻案〉の魔術師

—アニメーション映画監督・宮崎駿—



■講演梗概

宮崎駿監督のアニメーション映画の多くは、国内外の文学作品を下敷きにしてつくられています。1989年公開の『魔女の宅急便』は、角野栄子さんによる同名児童文学の映画化ですし、2004年公開の『ハウルの動く城』は、イギリスの児童文学作家ダイアナ・ウィン・ジョーンズさんの *Howl's Moving Castle* が原作です。宮崎駿監督のアニメーション映画は、原作となる文学作品からの影響や触発を受けて独自の映像世界が創造されています。

宮崎監督が脚色したアニメーション映画について考察してゆきますと、原作の作品を独自の手法で発展させてゆく創造的なプロセスが認められます。ここに、宮崎監督の文学作品の読みの精緻さや、その独自性がくっきりと立ち現れます。このような宮崎監督の脚色について、そのプロセスの全体を〈翻案〉と呼びたいと思います。本講演では、『魔女の宅急便』を取り上げ、角野栄子さんの原作作品のほか、実写映画版、ディズニーによる英語吹替版も視野に収めながら、〈翻案〉の魔術師としての宮崎駿監督の世界についてお話しします。

■講師紹介

米村 みゆき Miyuki YONEMURA 専修大学教授

専修大学文学部日本文学文化学科教授。研究領域は日本近現代文学、アニメーション文化論。博士(文学)。名古屋大学大学院博士課程を経て日本学術振興会特別研究員 PD、2009年より専修大学に在職。ブリティッシュコロンビア大学アジア研究センター客員教授(2019年)。2018年より日本アニメーション学会副会長、2022年より日本児童文学学会評議員。主要著書に『ジブリ・アニメーションの文化学 高畑勲・宮崎駿の表現を探る』(共編者、2022年、七月社)、『アニメーション文化 55のキーワード』(共編著、2019年、ミネルヴァ書房)、『ジブリの森へ—高畑勲・宮崎駿を読む—増補版』(編著、森話社、2008年)、『宮澤賢治を創った男たち』(2003年、青弓社、日本児童文学学会奨励賞受賞)など。



2023. 6. 30(金) 14:55~16:25 23201 教室(定員 150名)

対象: 本学学生・教職員、高大連携協定校、海外協定大学*

*シーナカリンウイロート大学(タイ)、上海外国語大学(中国)、輔仁大学(台湾)

*協定校・協定大学からの参加は Zoom となりますので、QRコードまたは以下の URL の申込フォームより

お申し込みください。(6/29(土)15:00 締切) ©03-5382-6749 ©<https://forms.gle/yHdbMPfTwrnvj4756>



 東京女子大学比較文化研究所